

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

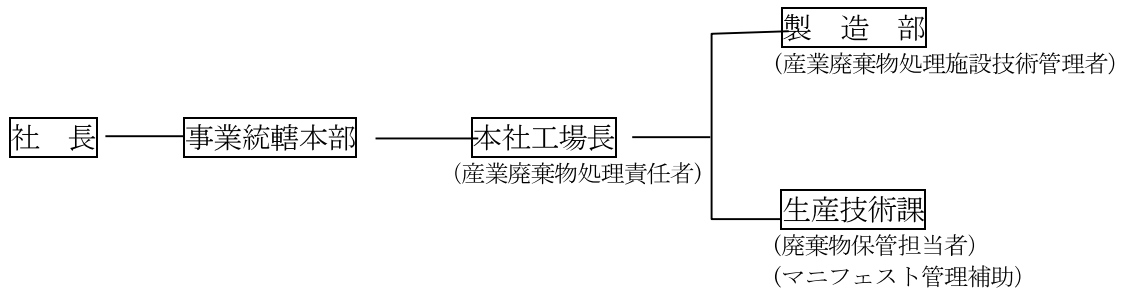
(第 1 面)

産業廃棄物処理計画書	
令和 7 年 6 月 27 日	
愛 知 県 知 事 殿	
提出者 住 所 愛知県豊明市沓掛町小所189 氏 名 寿がきや食品株式会社 本社工場 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 0562-92-1391	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事 業 場 の 名 称	寿がきや食品株式会社 本社工場
事 業 場 の 所 在 地	愛知県豊明市沓掛町小所189
計 画 期 間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事 業 の 種 類	09 食料品製造業
② 事 業 の 規 模	7720百万円
③ 従 業 員 数	378人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 一般廃棄物専用のポリ袋を使用し、生産ゴミとの差別化を図る。 ・ 硬質プラゴミを有償物業者へまわす。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 廃棄物パトロールの実施。 ・ ゴミ分別ルールを定期的にアナウンス。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（一年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】－		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	排水処理汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	－ t	－ t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	4,853 t	－ t
	(これまでに実施した取組) ・ 生ゴミ処理機と微生物処理の稼働による麵くず廃棄物の低減		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	排水処理汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	－ t	－ t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	4,610 t	－ t
	(今後実施する予定の取組) ・ 生ゴミ処理機と微生物処理の安定稼働による麵くず廃棄物の更なる低減 ・ 老朽化している脱水機のオーバーホールによる汚泥の減少。 ・ 現場運用の見直しによる廃棄物の低減 ・		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（一年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】 —		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

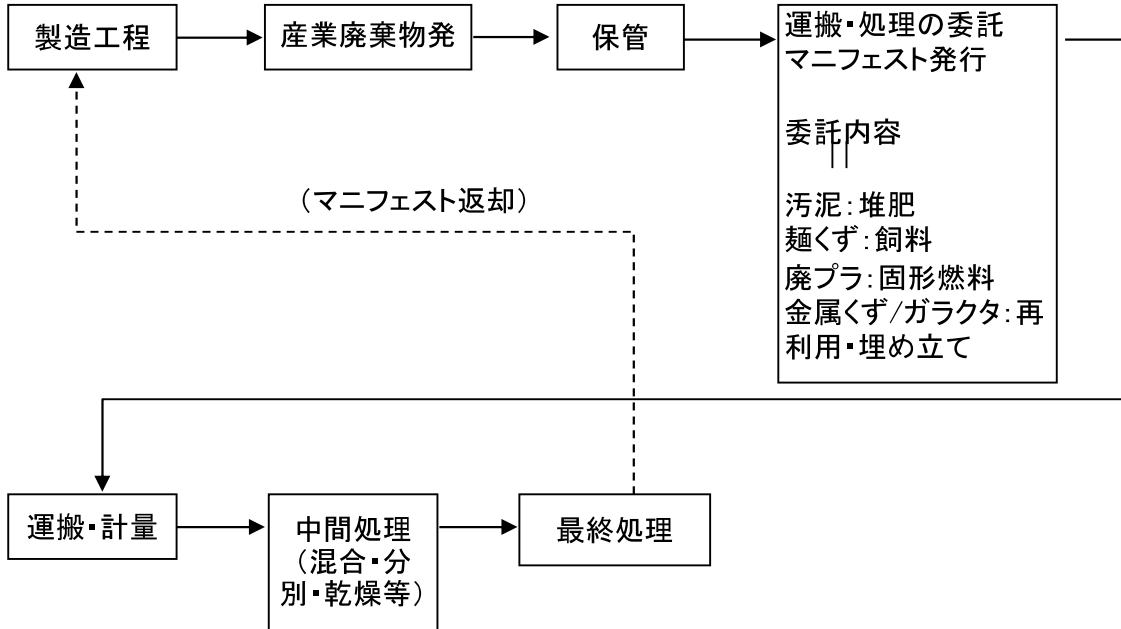
(第5面)

② 計画	【目標】別紙のとおり			
	産業廃棄物の種類			
	全 処 理 委 託 量	t	t	
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t	
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t	
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t	
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t	
	(今後実施する予定の取組)			
※事務処理欄				

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

【前年度(令和6年度)実績】
④産業廃棄物の一連の処理の工程



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項					
①現状	【前年度(令和6年度)実績】				
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	廃プラ類	金属くず
	排 出 量	5126t	526t	78t	6t
	(これまでに実施した取組) ・生ごみ処理機と微生物処理の稼働による麺くず廃棄物の低減				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	廃プラ類	金属くず
	排 出 量	4870t	500t	74t	5.7t
	(今後実施する予定の取組) ・自社にて生ゴミ処理及び微生物処理の安定稼働。 ・老朽化している脱水機のオーバーホールによる汚泥の低減 ・現場運用の見直しによる廃棄物の低減				

産業廃棄物の処理の委託に関する事項					
①現状	【前年度(令和6年度)実績】				
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	廃プラ類	金属くず
	全処理委託量	273t	526t	78t	6t
	優良認定処理業者への 処理委託量	273t	—t	78t	—t
	再生利用業者への 処理委託量	273t	526t	78t	6t
	認定熱回収業者への 処理委託量	—t	—t	—t	—t
	認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への 処理委託量	—t	—t	—t	—t
	(これまでに実施した取組) ・委託処理業者への現地確認の実施				

②計画	【目標】				
		汚泥	動植物性残渣	廃プラ類	金属くず
	全処理委託量	259t	500t	74t	5.7t
	優良認定処理業者への 処理委託量	259t	—t	74t	—t
	再生利用業者への 処理委託量	259t	500t	74t	5.7t
	認定熱回収業者への 処理委託量	—t	—t	—t	—t
	認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への 処理委託量	—t	—t	—t	—t
	(今後実施する予定の取組) 1: 動植物残渣処理業者の見直し 2: 業者の見直しを行い有価物と堆肥化物の比率に関して前年よりも堆肥化物の比率を増やす。 3: 委託処理業者への現地確認の実施				